

NEWS GOPE

インターネット・ニュースの見方

eye 1

最新ネットワーク技術の祭典

「NETWORK + INTEROP 98 TOKYO」開催

最先端のネットワーク技術に関する展示会「NETWORK + INTEROP 98 TOKYO」が、6月3日から5日まで、千葉県の幕張メッセで開催された。今回は国内外から305社が出展したが、マイクロソフトやネットスケープコミュニケーションズ、ロータスといった大手企業が出展を見合わせた。それでも3日間で99,322人を集めた今年のN+1。このショーからは、インターネットの将来像が見えてくる。 編集部

アジア最大の ネットワーク系イベント

「NETWORK + INTEROP 98 TOKYO」(N+1)は一般消費者をターゲットとしたイベントというよりも、ネットワーク関連企業や団体向けの展示会として位置付けられる。しかし今回のN+1では、ISDN対応のダイヤルアップルーターや低価格なワイヤレスLAN、ADSLモデム、CATV用ケーブルモデムといったコンシューマー向けの新製品が出展されていた。

一方で、大いに来場者の注目を集めたのはVPN (Virtual Private Network) やテレフォニー、セキュリティー関連製品などのプロ向け製品やサービスだ。米国で5月に開催されたN+1でも盛り上がったこれらの話題を中心に、日本におけるインターネットのトレンドを考察したい。

ギガビットイーサネットの 本格的運用

今回で5回目となるN+1は、展示会と並行してコンファレンスやセッションも数多く用意されており、最新のネットワーク技術などの情報を求める多くの聴講者を集めていた。また、これまでのN+1を支えてきた InteropNet と呼ばれる会場内のネットワークも、今回は ShowNet と名称を一新し、各

スポンサー企業や研究機関、学術団体などの協力のもとで最先端の技術を採用したネットワークを構築した(詳細は316ページ)。

今年のN+1において最も大きな話題となったのはギガビットイーサネットだろう。これは1Gbpsの帯域幅を持つ高速通信技術で、ATMとともに注目されているネットワークのバックボーン技術だ。

会場では、日本ルーセント・テクノロジーや富士通などが、このギガビットイーサネット対応のルーターやハブ、スイッチを出展した。こうした製品の多くはイーサネットやファーストイーサネットのインターフェイスも併せ持ち、既存のネットワーク環境のギガビットイーサネットへの移行が容易になるよう配慮されている。またギガビットイーサネットのPCIカードも、日本サン・マイクロシステムズなどいくつかのブースで展示されていた。パーソナルユース製品の登場で、ギガビ



3日間で99,322人を集めた「NETWORK + INTEROP 98 TOKYO」

ットインターネットが一般に普及するのは、そう遠い将来の話ではなくなりそうだ。

音声やファックス信号がインターネットに統合される

インターネット電話のデモンストレーションも数多く行われていた。昨年来、大手プロバイダーなど複数の企業がインターネット電話サービスを提供してきたが、音質の悪さや会話の遅延などの問題が指摘され、いまだに本格的な普及にはいたっていない。しかし最近では、音声データを交換する際の圧縮技術の進歩で音質の問題は改善されつつあり、今回のN+Iでも「Voice Over IP」(VoIP：インターネットプロトコルを使って音声のデータ通信を行うこと)関連製品は注目を集めていた。アセンドコミュニケーションズジャパンの「MAX 6000」をはじめ、日本ルーセント・テクノロジー、NTT、横浜アドバンスドアプリケーション、沖電気などが製品を展示し、デモンストレーションを行うなどしていた。

今回のN+Iで紹介されているインターネット電話は、プロバイダーの個人会員を対象にしたこれまでのインターネット電話サービスに加えて、海外などの離れた事務所間の通信コストを削減するために企業で利用するVoIPシステムのソリューションも目立っていた。

FAXの中継インフラとしてインターネットやイントラネットを利用するインターネット対応のFAX機やサーバー製品としては、日立インフォメーションテクノロジーや松下電送、三菱電機などが製品を紹介した。

このほか、すでに米国では普及し始めている電話、FAX、電子メールなどのメッセージ

インターネット・ニュースの見方

ングシステムを統合したCTI関連の製品が、NECや日本ルーセント・テクノロジーなどのブースで紹介された。ダイヤルイン番号が個々に割り当てられていることの少ない日本の企業では、ボイスメールなどのメッセージングシステムはまだまだ普及していないが、今後、日本でも企業のインフラが整備されれば、米国同様にCTIシステムの普及が進むものと思われる。

VPN サービスとセキュリティ製品

テレフォニー関連製品と並び、VPN関連のサービスも多くのブースで紹介された。

NECが運営するBIGLOBEが提供する「SOCKSVPNサービス」は、BIGLOBEのSOCKSVPNサーバーを経由して企業のイントラネットにアクセスするVPNサービスで、BIGLOBEのローミングサービスを利用することで海外からでも企業内ネットワークにアクセスできるようになる。もちろん、インターネット上を流れる通信データを暗号化することで、安全性は確保されている。

また、「SECURE ID」のようなワンタイムパスワードカードを使ったファイアウォールなどのセキュリティ関連製品の出展も目立った。こうした製品を展示する企業のブースでは、現在のインターネットに潜む危険性と、その危険から重要なデータを守る自社の製品の優位性をアピールするためのデモがいたるところで行われ、多くの人が熱心



インターネット上に配信された会場の様子

に見入っていた。この注目度の高さは、センセーショナルに報道されるウイルスやハッキングといった事件にも原因はあるが、こうしたブースを訪れる多くの人がビジネスにネットワークを導入した「当事者」としてセキュリティ対策を身近に考えているようだ。

今回のN+Iを通じて見てとれるのは、日本企業がインターネット技術を使ったネットワークを、ビジネスのインフラとして本格的に活用し始めたことだ。VoIPシステムやセキュリティ関連製品に対する注目の高さからも、ネットワークを運用する企業がネットワークに真剣に取り組んでいることや、そこから生じる具体的なニーズ(コスト削減や危険防止など)がうかがえる。情報通信分野で日本は米国にくらべて数年遅れているといわれているが、企業にとって重要なのはインフラの整備や質ではなく、顧客の満足を得られるサービスや製品の提供だ。今後は、今回発表されたようなさまざまなネットワークコンピューティング技術で完全武装した日本企業が、インターネットというボーダレスな競争舞台の上で、これから手掛けていこうとする新たなビジネスの展開にも注目したい。



松下電工が展示したSOHO向け情報配線システム



日本シスコシステムズの音声統合ルーター群



無線LAN製品「LAN SAT」

世界に先駆けて日本で製品発表会を開催 ウィンドウズ98、7月25日に発売決定

6月17日、丸の内東京国際フォーラムにおいてマイクロソフトウィンドウズ98製品発表会(Microsoft Windows 98 The Announcement)が開催された。米国での独禁法問題など、ぎりぎりまで揺れ動いたウィンドウズ98の発売がこれで日本でも正式に決まったことになる。このOSが市場やユーザーにどのような影響を与えるのか、当日スピーチを行ったビル・ゲイツ氏の話を変えてレポートする。

編集部

7月25日 ウィンドウズ98 日本上陸

日本で行われたこの日のイベントは、世界でもっとも早い製品発表会となった。入場者数は報道陣400人を含む約1000人。ウィンドウズ95が発表されたときほどの熱気はないものの、コンピュータ誌だけでなくテレビ局や新聞社の報道関係者が開場時間前から長蛇の列を作るなど、あいかわらずの注目度の高さをを見せていた。

この日、日本での発売日や製品仕様、価格などが正式にアナウンスされた。発売日は当初の予定どおり7月25日。パッケージは「アップグレード」と「通常」の2種類が用意され、どちらもPC/AT互換機とNEC PC9800シリーズの両方に対応する。価格はアップグレード版が13,800円、通常版が24,800円となっている。

インターネットが最優先されたOS 「ウィンドウズ95はインターネットが一般

に普及する前にリリースされました。これに対して、ウィンドウズ98はインターネットこそが最優先されるOSなのです」ビル・ゲイツ氏は強調する。

昨年のインターネットエクスプローラ4.0の発表以来、マイクロソフトが提唱してきた「ウェブユーザーインターフェイス」は、インターネットにあるリソースとローカルPCにあるリソースとを同じ操作方法で扱えるようにするというものだった。これによってWWWブラウザはOSと統合されたが、同時に、ほかの製品を排除するとして独禁法問題へも発展した。

ビル・ゲイツ氏は続ける。「ウィンドウズ95ではローカルにあるファイルとヘルプの参照、さらに、インターネットの利用をそれぞれ異なる操作方法によって行っていました。ウィンドウズ98では、これらすべてを同一のインターフェイスで扱えます。ユーザーが習得しなくてはならないコマンドを1つでも減らすことこそ、マイクロソフトが目指したゴールなのです」

市場の活性化を狙う

この日、ウィンドウズ98のデモを行った古川享会長は、同OSの「USB」と「IEEE 1394」の対応によってPCとその周辺機器はより家電に近づく」と主張した。ドライバーやアイロンのように、PCの周辺機器



ウィンドウズ98のデモを行う古川享会長

も使いたいときにつないで使い終わったらプラグを抜くといったものになるわけだ。

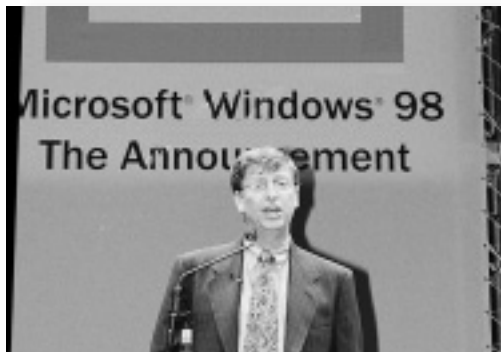
さらに、ウィンドウズ98へのアップグレードを予定しているホームユーザーの過半数が同時に周辺機器の購入を予定しているというデータも発表(日経マーケットアクセスの調査)。ビル・ゲイツ氏はウィンドウズ98の発売によってPCの市場はもちろん、周辺機器の市場も活性化すると予想する。

もう1つの統合「マルチメディア」

ウィンドウズ98のもう1つの姿を予感させたのは、ゲストとしてスピーチを行ったソニー株式会社代表取締役社長、出井伸之氏の言葉である。

「PCはこれまでワープロや表計算など、ビジネス目的に使われていました。ところが、DVDやUSB、IEEE 1394に対応したウィンドウズ98は、ソニーがこれまで提供してきたオーディオやビデオの世界と統合される可能性を持っています。PCとテレビの統合も進むでしょう。ソニーとマイクロソフトは今後も提携関係を深め、この動きを進めていきたいと考えています」

テレビのデジタル化が進み、光ファイバーやCATVなどの新しい通信インフラが整う時代は近い。法的問題や企業のあり方の問題など、能天気喜んでばかりいられないのは事実だが、ウィンドウズ98がユーザーにどんな世界を見せてくれるのかをイメージするのも悪くはなさそうだ。



製品発表の挨拶を行う会長兼CEOビル・ゲイツ氏

Java デベロッパーズコンファレンス 98

Java のサーバー技術とインターナショナルJDK

5月28日～29日まで日本サン・マイクロシステムズ社は「Java デベロッパーズコンファレンス 98 東京」を開催した。つぎつぎと新しい技術や応用事例を発表する Java の新しい話題である「Java サーブレット」と「インターナショナルJDK」について、コンファレンスの講師として来日した米国 JavaSoft 社のエンジニアに、そのコンセプトや今後の方向性を聞いた。

編集部



来日した米 JavaSoft 社のエンジニア Jim Driscoll 氏 (左) と Mark Son-Bell 氏

サーバー側プログラム言語も

Java で開発

クライアントからの要求により、サーバー側で動くプログラムはこれまでは CGI (Common Gateway Interface) を通じて、Perl などのスクリプト言語によって開発してきた。サン・マイクロシステムズ社の Java ウェブサーバーを使うことで、これからはサーバー側の処理も Java 言語によって記述することができるようになる。このようにサーバー側で動く Java プログラムを「Java サーブレット」という。クライアントもサーバーも Java 言語で開発できることはもちろん、文字列処理用に作られた Perl とは異なり、サーバー側のプログラムでも処理のステートを持てる。たとえばショッピングカートのような仕組みを簡単に作れる。

実際に Java ウェブサーバーを導入して Java サーブレットを開発したウェブサイトの開発者によれば、開発工数は従来に比べおおよそ半分になるといわれている。

また、「Java サーバーページ (JSP)」という機能も提供される。これはすでにマイクロソフトが提供している「アクティブサーバーページ (ASP)」と類似のものである。HTML ファイル中に Java 言語でプログラムを記述しておくことで、そのページを表示する前にそのスクリプトをサーバー上で実行し、その結果をページとして表示するという機能だ。これはデータベースと連動して、動的 (ダイナミック) にページを生成するような場合には必須ともいえる機能である。

これまで Java 言語はクライアント上で動くアプレットの開発用と考えていた人も多いと思うが、サーバー側のプログラム、そしてサーバーページも含め単一のプログラミング言語で開発できるメリットは大きい。

現在のウェブのページはスタティック (静的) に作られたものが多く、コンピューターを使っていることによる機能性を提供できていない場合が多いが、こうしたプログラミングインターフェイスとプログラミング言語が提供されれば、より簡単にダイナミックなウェブページが作れるだろう。

米 JavaSoft 社の Jim Driscoll 氏は「今後はよりサーバーを統合していくための技術、たとえば大型サイトに来る多量のリクエストをさばくのに、ロードバランスを見ながらほかのサーバーにリルートするなど、より強靱なサーバーシステムとするためのさまざまな技術開発をしていく」と語ってくれた。

JDK 国際化の 2 つのフェーズ

Java 言語で開発したプログラムはプラットフォームに依存せずに実行することができるということは改めていうまでもないだろうが、プラットフォームに依存しないということはプロセッサやアーキテクチャーだけではなく、使われる言語体系にも依存しないということが念頭に置かれていると米 JavaSoft 社の Mark Son-Bell 氏はいう。

Java 開発キット (JDK) では、英語以外の言語をサポートするにあたり、2 つのフェーズでの考え方を採用している。1 つは

「インターナショナルライゼーション」であり、もう1つは「ローカライゼーション」である。

JDK でいう「インターナショナルライゼーション」とは「ワールドワイドレディ」という意味で、英語以外の言語をサポートするのに必要な共通する機能をインターナショナルライゼーションで定義し、そこに各国の言語ごとの機能をプラグインする、つまりローカライズするという考え方になっている。

日本語で特に重要になるのが「かな漢字変換」機能だが、IIIMP (Internet Intranet Input Method Protocol) というプロトコルで実装し、ネットワークのどこにいてもネットワーク上の特定の「辞書」にアクセスして「かな漢字変換」ができるようにしたり、表示に必要なフォントセットがインストールされていないマシンでも文字が表示できるようにフォントファイルへのアクセス機能を VM に持たせたり、またダイアログボックスの文字の翻訳を簡略化するためにグロサリーを持たせるなどのアプローチがとられる。

海外に出かけ、そこにあるマシンに日本語化されたオペレーティングシステムが搭載されていないためにメールが読めないなどの苦労を感じてきている人も多いと思う。また、英語以外の複数言語、たとえば日本語とハングルを同時に表示するなどはなかなか考慮されていなかったが、こうした問題も Java のインターナショナルライゼーションそしてローカライゼーションの技術によって解決されようとしているのである。

ネットエコノミー戦略の正体を探る

6月4日、米国サンフランシスコにおいてネットスケープストラテジーデイが開催された。クライアント製品から企業向けサーバー製品への移行、コマースソリューションの獲得、ネットセンターの発表とめまぐるしく動いたこの1年を統括する場となった。「ESP」、「ネットエコノミー」、「ポータルサイト」の3つのキーワードが統合されたネットスケープ社の戦略をレポートする。

編集部



副社長マーク・アンドリーセン氏

ESPへの支援こそが戦略

ジム・パークスデール、マーク・アンドリーセン、マイク・ホーマーの3人の中心人物によってリレー形式で行われたネットスケープ社の戦略発表は、「シティバンク」に対して自社のサーバーおよび電子商取引ソフトウェアのライセンスを供与する契約を結んだ話題から始まった。

「このライセンス契約によって、シティバンクは取引先や顧客に対して各種のアプリケーションをインターネットサービスとして提供する“エンタープライズサービスプロバイダー”としての役割を果たすこととなります」と語る社長兼CEOジム・パークスデール氏の言葉に同社の戦略が象徴される。

クライアントからサーバー製品へのターゲットの移行、エクストラネット構想、KIVA社とActra社の買収によって得たアプリケーションサーバーと電子商取引ソフトウェア、そしてバーチャルコミュニティーとして発表されたネットセンター、これまでばらばらに発表されたかに見えたネットスケープ社の製品やコンセプトが1つの目的のもとに統合され

たように見える。つまり、今後、企業間の商取引(B to B)や顧客への販売やサービス(B to C)を、インターネット上でビジネスアプリケーションによって行う企業は「エンタープライズサービスプロバイダー」(ESP)としての役割を果たすようになる。ネットスケープ社はこれらのESPに対して、必要なソフトウェアやソリューション、そしてアウトソーシングを提供すると発表したのである。

オールドエコノミーとネットエコノミー

「私たちは、企業が我先にとインターネット上の領土獲得に走る“ネットエコノミー”の幕開けに立ち会っています」とジム・パークスデール氏は既存のビジネスモデル「オールドエコノミー」に対して、新しい時代のそれを「ネットエコノミー」と呼ぶ。ここでは、単純な作業から厳密なセキュリティが要求される電子商取引まで、すべてがオンラインで提供され、数千人から数百万人のユーザーが必要に応じてさまざまなインターネットアプリケーションにアクセスできるようになるというのだ。

「インターネットの成熟とともにネットエコノミーは爆発的な普及への秒読み段階に入っています」とジム・パークスデール氏は続ける。

「ネットスケープ社はこの新しい時代において、企業の成功を支援するという非常にユニークなポジションにいます」

ネットエコノミーというマーケットでのネットスケープ社の売上目標額は2000年に280億

ドル、2001年には447億ドルと発表された。

戦略を支える3つの要素

ネットエコノミー戦略を実現する具体的な要素としては次の3つが発表された。

① エンタープライズソフトウェア

スイートスポット製品群とKIVA社買収によって得たアプリケーションサーバー。パッケージ化された製品によって、システム構築を容易にする。ESPがインターネットアプリケーションを顧客や従業員、取引先に提供するためのソリューション。

② 電子商取引ソフトウェア

Actra社買収によって得たネットスケープCommerceXpert製品群。ESPにe-commerceソリューションを提供する。「B to B」の取引に使われる「SellerXpert」、「B to C」のオンライン販売を目的とした「MerchantXpert」などが含まれる。

③ ポータルサイト

自社のウェブサイト「ネットセンター」をポータルサイト(インターネットへの入り口となるサイト)として位置付け、ここを訪れるユーザーをパートナーの運営するコマースサイトへと誘導する。また、ネットセンター内でも自社のCommerceXpertをベースとした電子商取引サービスを行うとともに、中小企業向けに各種サーバーのアウトソーシングも行う。

これら3つの要素によって、ターゲットは大企業から中小企業、さらにはネットセンターのメンバーである消費者までを網羅



社長兼CEOジム・パークスデール氏

するとしている。

ポータルサイト「ネットセンター」の役割

「私たちのゴールは、2000年までにネットセンターを世界第一のポータルサイトにする事です」ネットスケープ社副社長兼ネットセンタージェネラルマネージャーであるマイク・ホーマー氏は宣言した。

今回発表された戦略が成功するかどうかの鍵を握るとともに、インターネットとユーザーの関係を変える可能性があるという意味でもっとも興味深いのが「ネットセンター」である。

以前から検索サイトとして利用されていたYAHOO!やinfoseekが、最近になってインターネットへの「入り口」や「玄関」という意味ををこめて「ポータルサイト」と呼ばれるようになった。マイクロソフト社も「internet start」なるポータルサイトの試験運用を開始したばかりだ。

ネットセンターは、すでに会員数500万人、1か月のアクセス数2000万人以上を誇る大手ポータルサイトの1つとなっている。ネットスケープ社は「プロジェクト60」計画を発表し、ネットセンターを60日以内に業界をリードするポータルサイトへと発展させたいとしている。5月11日にはプロジェクトの第一弾として中小企業向けに「スモールビジネスソース」を発表した。これには、Atrieva社によるオンラインバックアップサービス、Netopia社によるバーチャルウェブオフィス、Concentric Network社によるウェブホスティングサービス、NewsEdge社とThe Mining社が提供するニュース、Amazon.com、Travelocity、software.netなどによる書籍、旅行、ソフトウェアなどのオンライン購入サービスなど、豊富なコンテンツが含まれる。

ストラテジーデイではこのプロジェクトをさらに進めるための戦略として「ネットセンター2000」の構想が発表された。18か月以内に登場する予定の新しいポータルサイトの目玉は、5月4日に発表されたExciteとの提

インターネット・ニュースの見方

携による新サービス「サーチ98」だろう。

サーチ98ではExciteによって従来よりも50パーセント高速な検索機能と、アート、レジャー、オークション、自動車、広告、教育、ショッピングなどのコンシューマー向けチャンネルが提供される。この提携には、Exciteがネットセンター2000の広告販売を担当するというビジネスモデルも含まれている。

プロジェクト60の成功によってこの入り口サイトのユーザーが増加すれば、パートナーが運営するコマースサイトへとより多くの顧客を導けるというのがネットスケープの狙いだ。さらに、ネットセンターのコンテンツをアウトソーシングすることで、自社でシステムを持つにはコスト面でも管理面でも困難な中小企業にe-commerceソリューションを提供できるとしている。

コンシューマーにとっての恩恵

企業ユーザー向けの戦略に加えて、コンシューマー向けにはクライアントである「ナビゲーター」とネットセンター2000の統合による「スマートブラウジング」の構想が発表されている。

7月に発表が予定されているナビゲーター4.5は、どうやらネットセンターの専用クライアントとしての役割がありそうだ。ネットスケープの担当者は「ネットセンターはオープンなウェブサイトでありWWWブラウザを限定するようなことはない」と語っているが、Exciteのサービスとナビゲーター4.5の新機能によってWWWの閲覧方法は大きく変わり、ネットセンターの戦略を有利に進められる。

URLではなくキーワードによって目当てのサイトにたどり着ける「Internet Keywords」機能や、表示中のサイトに関係があるページにジャンプするメニューが現れる「What's Related」機能の役割を予想するのはそれほど難しくない。つまり、ネットセンターにア

クセスしたユーザーはそれぞれのコンテンツを見て「この商品に興味がある」と感じた瞬間にキーワードを入力する。この結果パートナーのサイトに瞬時にアクセスすることになる。さらに深い興味を抱いたユーザーは「What's Related」ボタンを押す。この流れによって次から次へとユーザーを関連サイトに導けるわけだ。

スマートブラウジングで企業に利益がもたらされるのは当然だが、ユーザーにとっても決して無駄な機能ではないはずだ。

マイクロソフト社のWWWブラウザと同じ土俵で競争してきたナビゲーターが、ネットエコノミーという自社の戦略にそって独自の進化を遂げようとしているのは非常に興味深い。この流れは、98年の終わりに発表が予定されているナビゲーター5.0でさらに顕著になるだろう。このバージョンでは、インターネットのリソースとローカルのリソースを同様に扱えるインターフェイス「Aurora」の機能が加わるほか、クレジットカードの情報やデジタル認証によってe-commerceを促進するクライアントとしての役目も果たすことになる。

ネットエコノミー時代に活躍するであろうESP向けのソリューション、中小企業向けのアウトソーシング、そしてコンシューマーには新クライアントによる「スマートブラウジング」の提供。確かにこれまでにないほど明確で統合的な戦略が発表された。その成功の鍵を握るネットセンターに、どれほどの企業が魅力を感じ、パートナーとして名乗りをあげるかが注目される。と同時に、日本でこの戦略が受け入れられるのかという大きな課題も残されている。



副社長マイク・ホーマー氏

視覚障害者のインターネットへのアクセシビリティを考える 情報バリアフリー・フォーラム1998開催

日本アイ・ピー・エム(IBM)は、5月22日、六本木オリベホールにて「情報バリアフリー・フォーラム1998」を開催した。視覚障害者自身の意見発表やウェブページを持つ各社の対応事例紹介といった現状報告だけではなく、「ホームページリーダー」(IBM)などの視覚障害者向けブラウザでアクセス可能なホームページを作るためのガイドラインの普及を訴えた。

梅垣まさひろ



米国IBMのSNS部門プログラムマネージャーであるフィル・ジェンキンス氏

米国ではアクセシビリティは ビジネス上でも重要な問題に

米国IBM社SNS(Special Needs Systems)部門のプログラムマネージャーであるフィル・ジェンキンス氏は、「Web Accessibility issues」、「What is Software Accessibility(Using Java as a tool)」というテーマで講演。その中で、米国ではADA(Americans with Disabilities Act)をはじめとして障害者支援のための法的な整備が進み、ビジネス上でもアクセシビリティの高い製品を用意することが重要になってきていると指摘、同時にOSやアプリケーション、ウェブページのアクセシビリティの向上を訴えた。また、氏もメンバーの一員を務めるW3CのワーキンググループWeb Accessibility Initiative(WAI)がまとめたガイドラインをもとに、HTML4.0に盛り込まれたアクセシビリティ機能などを紹介し、JFCのSwing/JFCを使ってJAVAの画面を音声で操作する実演を行った。

ウェブページの現状と

ユーザーの声

パネルディスカッションでは、NHK報道局衛星放送部で古くからこの問題に取り組む大村朋子氏を進行役に、花王株式会社情報作成センターの本間充氏、朝日新聞社でASAHI.COMを担当する井上実子氏、ヤフー株式会社の影山工氏ら情報提供者側と、全盲のユーザーとして塚原、志摩の両氏がそれぞれの立場から発言した。

花王の本間氏は、製品が主婦を対象としているため凝ったデザインにならざるをえないが、視覚障害者のアクセシビリティを考慮して画像にALTを付けるといった処理はしてきたと述べた。ASAHI.COMの井上氏は、これまであまりアクセシビリティを意識してこなかったが、幸いにして視覚障害者にも比較的に見やすいと評価されていると述べ、同時に、写真にALTタグを付ける難しさも指摘した。ヤフーの影山氏は、視覚障害者から寄せられた1通のメールがフォーラムへの参加のきっかけであり、翌日から主要なページを読み上げソフト対応に変更したと述べた。しかし、これは一例に過ぎず、アクセシビリティの実現にはさらに進んだ技術が必要であると。ユーザーの2氏は、インターネットが視覚障害者の生活を豊かにしており、また生きがいになっていると語った。そのうえで、「視覚障害者には、インターネットは便利なものではなくて、必要なもの」(志摩氏)であることを知ってほしいと訴えた。

対応策とガイドライン作りの提案

日本アイ・ピー・エム東京基礎研究所の浅川智恵子氏は、ある著名なページへアクセスし、文字情報を画像化したページでは、視覚障害者はそこにアクセスできないという事例を紹介した。しかし、そのページに手を加えれば、見た目を変えなくてもホームページリーダーで視覚障害者がアクセスできることも示した。そして「リンクのある

画像にはALT属性を付ける」、「TITLEを必ず付ける」、「クライアントイメージマップにコメントを」、「サーバーサイドイメージマップは使わず、クライアントサイドイメージマップで」と、ホームページリーダーに対応するアクセシビリティの4つのガイドラインを提示し、この4点を自動診断できるチェッカー「i-checker」(IBMのウェブで公開。[URL http://www.ibm.co.jp/accessibility/](http://www.ibm.co.jp/accessibility/))を紹介した。

まとめでは、慶應義塾大学教授の安村通晃氏が「行政、業界、ユーザーがそれぞれ行動を」、「ガイドラインに則したページ作りを」、「継続的なフォーラム活動を」と3つのアクションリストを提案。情報のバリアを取り除き、いつでも誰でもどこでもインターネットの使える環境を実現しようと呼びかけた。

本フォーラムに参加したW3C/WAIスタッフの中根氏(慶應義塾大学)は、「WWWのアクセシビリティについては、ユーザー、コンテンツクリエイターなどさまざまな視点からの意見が聞かれた。しかし気になった点は、やはり欧米に比較した場合の意識の低さ。最も大きな問題は、アクセシビリティの観点からどのような問題があるかをしっかりと認識できているユーザーが必ずしも多くない点だろう」と指摘している。

IBMでは、今年初めて開催したこのフォーラムを毎年開催していきたい(園田善一氏、IBM社会貢献顧問)と意欲十分だ。

Product 複数のサーバーを1つのIPアドレスで管理

伊藤忠テクノサイエンスがレゾネイト社製品を販売

同時に多くのユーザーがアクセスするような大規模ウェブサーバーにとって、高負荷に耐えることは必要不可欠となってきた。この問題を解決してくれる製品の1つがレゾネイト社製品である。

編集部

このたび伊藤忠テクノサイエンスから販売が開始されるのは、レゾネイトディスパッチという製品群で、セントラルディスパッチとグローバルディスパッチの2種類である。

セントラルディスパッチは、複数のウェブサーバーを組み合わせて1つのサイトを構築できる製品で、各サーバーの負荷状況を計測してサイトへのリクエストの処理を負荷の低いサーバーに割り振ることができる。さらに1つのサーバーがダウンしてもほかのサーバーに処理を引き継がせることもでき、サイト全体の信頼性を向上できる。

しかし、この製品の本質は負荷分散や高信頼性だけではなく「1つのIPアドレスで

さまざまなサーバーを一元管理できるVIPという技術にある」とレゾネイト社CEOクリストファー・C・マリノ氏はいう。同製品ではHTTP以外にもSMTPやPOP、FTPなどTCP/IPベースのプロトコルに対応しており、インターネットで使われるメールサーバーやプロキシサーバーなどと組み合わせることによって、ユーザーは1つのIPアドレスでリクエストに応じたサーバーと通信でき、プロキシや電子メールのサーバーに対して1つのIPアドレスを設定するだけで済む。また、管理者から見れば、負荷分散だけでなくインターネットで使われるサーバーへのアクセスに対してユーザー

に1つのIPアドレスを提示するだけで済むので管理コストの削減にもつながるといふ。

グローバルディスパッチはセントラルディスパッチと同等の機能を提供するWAN用の製品で、地理的に離れた場所に置かれたサーバーの負荷分散を目的としている。

伊藤忠テクノサイエンスでは、これらの製品をプロバイダーやコンテンツ提供者、ECサイト、イントラネットなど大規模または信頼性の要求される分野に販売する。

問い合わせ 伊藤忠テクノサイエンス(株)
TEL 03-5226-1721



レゾネイト社CEOクリストファー・C・マリノ氏

Product コンテンツが成功の鍵となるインターネット端末急速な展開を見せはじめたNCTV戦略

3月の製品発表以来、DTIやDDIといったプロバイダーとの提携など戦略的な発表が続くNCTV。今回はネットワークコンピュータ社(NCI)が考えるNCTVの戦略について同社コンシューマーマーケティング担当副社長デビッド・A・リンプ氏に話を聞いた。

編集部

AnyISP/AnyCATVという名称で、日本オラクルとNCIはDTIやDDIなどにNCTV向けのシステム構築技術を供与すると発表した。技術を供与された企業は、NCTVを使ったサービスを考えているコンテンツ提供会社などにシステムの構築や運用サービ



NCIコンシューマーマーケティング担当副社長デビッド・A・リンプ氏

スを提供する。実際、今秋にもNCTVを使ったインターネット接続サービスや特定のユーザーに向けた情報提供サービスが開始されるという。またこの戦略とは別に、さくら銀行によるオンラインバンキングなども予定されているほか、ケーブルテレビのセットトップボックスやデジタル衛星テレビ機器、航空会社の発券予約システムの端末などの用途があると考えている。

リンプ氏はこのようにプロバイダーや特定のサービスを提供する会社とパートナーシップを組むことについて次のように語っている。

「ユーザーにとって必要なのは個人に合ったコンテンツの提供です。NCIが提供する

のはサーバーやクライアントのソフトウェアで、それ以外のハードウェアやコンテンツはパートナー企業によって提供されます。さまざまな企業がNCTVの利用環境を提供することで、ユーザーの好みに対応できます。WebTVのような1社によるサービス提供は単にマーケットを小さくしているに過ぎません。サービスをユーザーが選べるほうがより市場が拡大するはずですよ」

またコンテンツのあり方については、「インターネットの基本技術に準拠したオープンな環境を提供することで、キラアプリケーションのようなすぐれたコンテンツが出てくる」とも語っている。

この言葉が現実となるかは実際のサービスが始まらなければ見えないが、「NCTVはテレビという簡易なディスプレイと組み合わせられるためPCの市場より10倍も大きな市場を相手にできるのです。」とオープンな環境の優位性を強調している。

Product NTT-TE東京 / BUGが
ダイヤルアップルーターの
新製品を発売

NTT-TE東京とビー・ユー・ジーは、MN128-SOHOの後継機「MN128-SOHO SL10」を7月中旬に発売する。接続状況が一目でわかる液晶ディスプレイが付き、ナンバー・ディスプレイやRVS-COMに対応した。アナログポート3つ、10BASE-Tポート4つ、S/T点2つ、RS-232Cポートを1つとDSUを装備している。DSUは無効化スイッチで切り離し可能。価格は69,800円。

URL <http://www.te-tokyo.co.jp/>
URL <http://www.bug.co.jp/>



外観も縦型になってさらにパワーアップしたMN128-SOHO SL10

Product NECが
ダイヤルアップルーターの
新製品 2機種を発売

NECは、2月に発売されたダイヤルアップルーター「COMSTARZ ROUTER」の後継機「COMSTARZ ROUTER D2」と「同S2」を6月2日に発売した。新機能は、このルーターに接続された複数のパソコンがそれぞれ別のプロバイダーを使って同時にインターネットに接続できたり、同一のパソコンから同時に2つのプロバイダーに接続できたりする点。価格はDSU付きのD2が58,800円で、DSUなしのS2が51,800円。

URL <http://www.nec.co.jp/japanese/today/newsrel/9806/0201.html>



ナンバーディスプレイにも対応

Product イン트라ネットシステムが
SOHO向けのPCIボード
型ルーターを発売

イン트라ネットシステムは、DSUとTA、ハブ機能が2枚のPCIボードにまとめられたSOHO向けダイヤルアップルーター「R-128 Plus」の出荷を6月末より開始する。これは、マイクロ総合研究所が開発した製品で、アナログポート2つと10BASE-Tポート3つを装備する。LAN側では256セッションが接続可能で、それぞれのクライアントマシンから同時にインターネット接続ができる。

URL <http://www.intranet.co.jp/products/r128/r128top.html>



PCIスロットに差し込むだけで場所をとらないルーター

Product コンパックコンピュータが
ウィンドウズCE 2.0搭載
ハンドヘルドPCを発売

コンパックコンピュータは、ウィンドウズCE 2.0を搭載した最小最軽量のハンドヘルドPC「コンパックCシリーズ2010C」(カラーモデル)と「Cシリーズ810」(モノクロモデル)の2機種を6月4日に発売した。CPUはMIPS社R3900互換のRISCプロセッサを採用し、搭載メモリは標準でカラーモデルが20Mバイト、モノクロモデルが8Mバイト。価格はそれぞれ120,000円と92,000円。出荷は7月上旬の予定。

URL <http://www.compaq.co.jp/>



カラーモデルで540g、モノクロモデルで450gと軽量

Product NTT パーソナルが
PDA 一体型 PHS を
発表

NTT中央パーソナル通信網は、プロバイダーとの契約をしなくても、インターネットを利用した電子メールの送受信やホームページ閲覧が可能なPDA一体型PHS「インターネットパルディオIP-ID」を8月上旬に発売する。これは、16階調の高解像度大型液晶ディスプレイを搭載し、HTML 3.2に準拠している。通話は、本機に内蔵された巻き取り式イヤホンマイクを引き出して利用する。価格は未定。

URL <http://www.nttphs.co.jp/>



付属のタッチペンで簡単に操作できる

Product スリーコムジャパンが
LAN + 56K モデムの
グローバルPCカードを発表

米3Comの日本法人であるスリーコムジャパンは3Com Megahertz 10(BASE)+56Kおよび10/100(BASE)+56KモデムグローバルPCカード日本語版(3CXEM556T-Jおよび3CCFEM556-J)を6月3日に発表した。この2製品はV.90に準拠しているほか、世界230か国に対応するグローバルモデム機能を持つ市場初のLANとモデムのコンビネーションPCカード。価格はオープンブライス。

URL <http://www.3com.co.jp/>

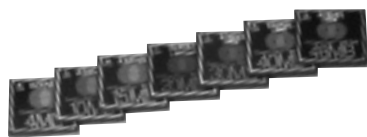


写真の10 + 56KモデムPCカード日本語版は6月下旬に出荷開始予定

Product SCMが
大容量48Mバイトの
CFカードを発売

SCM マイクロシステムズ・ジャパンは、デジタルカメラなどで使用できるコンパクトフラッシュカードの新シリーズを6月下旬より発売する。今回発売されるのは、30Mバイトの「PCF-C30」、40Mバイトの「PCF-C40」、48Mバイトの「PCF-C48」の計3機種。また、同時にフラッシュATAカードの新製品「PCF-85」（85Mバイト）も発売する。どちらも価格はオープンプライス。

URL <http://www.scmmicro.co.jp/>

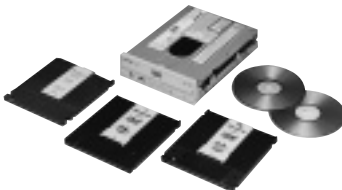


高画質のデジタルカメラでも大量の写真が撮れる

Product 松下電器産業が
PDの記録再生も可能な
内蔵用DVD-RAMを発売

松下電器産業は、パソコン内蔵用のDVD-RAMドライブ「LF-D101J」を発売した。大容量5.2Gバイト(2.6Gバイト×2面)の記録再生とPDカートリッジの記録再生、DVD-ROMの2倍速再生、CD-ROMの最大20倍速再生が特徴。インターフェイスはSCSI-2 (FastSCSI対応)で、価格は90,000円。また、同時に外付けタイプのPD/CD-ROMドライブ「LF-1700JB」も発売。価格は54,800円。

URL <http://www.panasonic.co.jp/pd/>



PDとのデータ交換にも最適な「LF-D101J」

Product 三洋電機が
モバイルペンティアムを
搭載した「Winkey」を発売

三洋電機は、モバイルPentium を搭載したノートパソコン「MBC-S950」（266MHzモデル）と「MBC-S900」（200MHzモデル）を7月1日から発売する。「MBC-S950」は14.2型TFT液晶を搭載し、チップセットにIntel 440BX PCisetを使用し、USBを2個、80Mバイトのメモリー、4GバイトのHDDを搭載している。価格は、「MBC-S950」が648,000円、「MBC-S900」は498,000円。

URL <http://www.infosys.sanyo.co.jp/winkey/>



厚さ41ミリ、2.9グラムのボディーでモバイルPentium を採用

Product アップルコンピュータが
QuickTimeの最新版を
配布開始

アップルコンピュータは業界標準のマルチメディアプラットフォームである「QuickTime」の最新版「QuickTime 3.0 日本語版」の配布を開始した。すでにホームページより無償ダウンロードができる。これは、Mac OSとウィンドウズ95/NTに対応した。さらに、29.99ドルで米国本社よりキーコードを購入すると、カットアンドペーストでデジタルビデオ編集ができるなどの高度な機能を追加した「QuickTime 3.0 Pro 日本語版」を利用できる。QuickTime 3.0 日本語版では、インターネットのコンテンツ配信機能を強化し、より高速で高品質な配信が可能になった。

問い合わせ アップルコンピュータ(株)FAX情報サービス FAX 03-3391-1200

URL <http://quicktime.apple.co.jp/>

Product クニリサーチインター
ナショナルがEudora Pro
の最新バージョンを発売

クニリサーチインターナショナルは定番の電子メールソフトの最新バージョン「Eudora Pro Ver4.0-J」のウィンドウズ95/NT版およびマッキントッシュ版を7月10日に同時発売する。新機能は、LDAPやACAPに対応したほかHTMLメール作成、送受信機能やフィルター簡単作成機能が追加された。また、ウィンドウズ版ではIMAP4にも対応。発売前にベータ版がホームページ上で公開されている。

URL <http://www.kuni.co.jp/>



ウィンドウズ版の画面。プレビュー機能も追加された

Product メディアカイトが
音声や画像を送れる
メールソフトを発売

メディアカイトは、昨年末に全米で発売されて大ヒットとなった米ソフトリンク社のボイス電子メール世界標準ソフト「WITH VOICE」を7月10日に発売する。これは、文章と一緒に声を録音して相手に送ることができ、相手がこのソフトを持っていない場合、再生用プレイヤーと一緒に送ることが可能な簡単操作のメールソフト。価格は4,800円で専用マイクが付く。

URL <http://www.bekkoame.or.jp/~with-voice/>



声と一緒に絵も送れる「WITH VOICE Multi」は9,800円で同時発売

Product BUGが
イントラネット用の
自動巡回ソフトを発売

ビー・ユー・ジーは、イントラネット用のオートパイロットシステム「波乗野郎 Enterprise」を開発し、6月5日に発売した。これは、イントラネット上の複数のクライアントが登録したインターネットのホームページを自動巡回し、内容が変わっていたら、その更新した内容を電子メールで通知したりする機能をウェブサーバーに持たせている。また、登録されたURLのホームページ情報を、自動的にサーバーにキャッシュできる。これによって、ウェブサイトの一元管理が可能なので、情報を効率よく共有したり不正サイトへのアクセスを防止したりと、イントラネットサーバーの運用の手助けになる。価格は78,000円で、試用版がホームページに上がっている。

URL <http://www.bug.co.jp/>

Product コアがセキュリティー対策
ソフト「eSafe Protect」
を発売

コアは、ネットワーク経由で侵入する悪質なJava アプレットやActiveX コントロールから、クライアントレベルでデータを守るセキュリティーソフト「eSafe Protect」を発売した。フォルダー、WWW ブラウザー、ログオンユーザーごとに許容と禁止アクションを設定することにより、ファイルを保護できるのが特徴。アンチウイルス機能を搭載した「eSafe Protect」が9,800円。非搭載の「eSafe Protect EV」は7,800円。

URL <http://www.core.co.jp/>



パーソナル・ファイアウォール機能も搭載している「eSafe Protect」

Product NECが
ネットサーフィン用の
便利ソフト2製品を発売

NECは、ホームページのデータを簡単に保存・更新できる「ホームページスクラップブック Ver.2.0」を7,800円（アップグレードユーザー向けは5,800円）で、インターネットにアクセスしているときのプロバイダー接続料金と電話料金がわかる「インターネット料金計算ツールいま、いくら? Ver.1.0」を4,800円で発売。どちらもWindows95、NT4.0で動作する。

URL <http://www.psinfo.nec.co.jp/>



NECのホームページから購入することもできる

Product シャープが
アプリケーション
2種をバージョンアップ

シャープは、Windows95用のマルチメディア個人情報管理ソフト「Power PIMM Ver.3.0」と英日翻訳支援ソフト「PowerE/J Ver.3.0」を5月9日に発売した。PowerPIMMは、インターネット機能などが強化されたほか、デジタルカメラとの連携も簡単になった。PowerE/Jは、新しい翻訳エンジンを採用することによって、翻訳精度が向上し、よりの確な訳文が出力されるようになった。価格はどちらも12,000円。

問い合わせ シャープ㈱
コンシューマーセンター
TEL043-297-4649



アドレス帳から電子メールソフトを起動できるようになった「PowerPIMM Ver.3.0」

Product ソフトフロントが
マーケティング業務向け
電子メールシステムを発売

ソフトフロントは、ドゥ・ハウスと共同でマーケティング業務専用の電子メールソフト「++Mail for Marketing Communication」を開発し、6月30日に発売する。インターネットを使ったダイレクトマーケティング分野でいち早くOne To Oneマーケティングに取り組んだドゥ・ハウスと、データベース一元管理の電子メールソフト「++Mail」を販売しているソフトフロントが共同開発。送受信したメールを直接データベースに記録したり、複数の相手にメールを個別配信できたりするほか、個人のデータベース管理機能をマーケティング業務に特化した製品となっている。価格は5ライセンスで198,000円。

URL <http://www.dohouse.co.jp/>

URL <http://www.softfront.co.jp/>

Product エムシーパソコン販売が
米 Sonic 社製ダイヤル
アップルーターを発売

エムシーパソコン販売は、米 Sonic Systems 社のマルチプロトコル対応ダイヤルアップルーター「QuickStream PRO」とインターネットフィルター「Interpol」を発売した。QuickStream PROはRS-232Cポートを3つ備え、イーサネットポートは10BASE-T/2のコネクターが1つずつ用意されている。RS-232Cでは最高115.2Kbpsまでのスピードをサポート。また、マルチプロトコル対応なので、OSごとに個別に電話回線などを準備する必要がない。設定や管理はWWW ブラウザーからできる。Interpolは、B5サイズよりも小さな筐体だが、ファイアウォール機能も装備している。

問い合わせ エムシーパソコン販売㈱
TEL 03-3351-1614

URL <http://www.sonicssystem.com>

Service カシオがカシオペアを ウィンドウズCE 2.0へ バージョンアップ開始

カシオ計算機は、ハンドヘルドPC「カシオペア」のOSを従来のウィンドウズCE 1.0から2.0へバージョンアップするサービスを6月25日より開始した。OSのアップグレードはROM交換によって行われるため、各種の設定が初期状態に戻るので注意。対象機種はウィンドウズCE 1.0日本語版が搭載されているカシオペアA-50、A-51、A-51Vの3機種で、費用は20,000円(税抜、返送費込み)で約1週間の期間を要する。申し込みは、本体と申し込み書をカシオテクノ・サービスステーションに直接持ち込むか、あるいは郵送する。なお、申込書はホームページ上でPDF形式で公開されている。

URL <http://www.casio.co.jp/hpc/topics.html>

Service 富士通 FIP が 住宅地図のファックス 配信サービスを提供

富士通エフ・アイ・ピーは、インターネットやパソコン通信を利用したゼンリンの「地図ファックスサービス」を提供している。

利用できるプロバイダーは、ニフティサーブ、G-serch、BIGLOBE、Peopleで、この会員であれば、サービスを受けられる。操作は、プロバイダーのホームページからこのサービス用のページへ行き、そこで欲しい情報を入力する。提供される地図は、詳細な住宅地図なので、道路や建物などの構造物、建築物をはじめ、戸別の建物名称まで網羅している。提供されるファックスモードはG3ファインモードで、用紙はA4またはB4、縮尺は約1500分の1。価格は1枚500円で、別途プロバイダー通信料がかかる。

URL <http://www.fip.co.jp/>

Service MEXがDTIと共同で ダイヤルアップ接続向け VPNサービスを提供

メディアエクステンジ(MEX)はプロバイダーのドリームトレインインターネット(DTI)と共同で、ダイヤルアップIP接続の環境から利用できるVPN(Virtual Private Network)サービスを提供すると発表した。このサービスは、MEXのATM技術を基幹網にしたATMインターネット接続サービスとDTIの持つダイヤルアップIP接続サービスのノウハウを組み合わせ提供される。サーバーには、DTIが開発を進めていた、属性を含む個人情報をまとめて管理できるという「ドリームサーバー」が利用される。MEXとDTIは、このダイヤルアップVPNサービスを1999年1月から開始する予定だ。

問い合わせ メディアエクステンジ 営業部
TEL 03-4306-6532

Company 日本アイ・ビー・エムほか 2社がJavaの普及促進 を目的とした団体を設立

日本アイ・ビー・エム、日本サン・マイクロシステムズ、富士ソフトABCの3社は、Javaの普及を促進するために「Javaコンソーシアム」を設立することを発表した。

これは、ネットワークコンピューティングの環境でJavaによるアプリケーション開発とシステム構築を推進するための団体で、実際には技術セミナーの開催や100% Pure Java認定取得の支援などを行っていく。さらに、Java製品を流通させて利用を推進するためにウェブ上に会員企業向けの電子モールを構築予定である。このほか、Java関連製品のテストや最新技術情報の提供などを予定している。5月末で会員企業は134社。

問い合わせ Javaコンソーシアム事務局
TEL 03-5600-5915

Company ビザ・インターナショナル が多機能スマートカードで 主要金融機関26社と提携

ビザ・インターナショナルは、Javaベースの多機能スマートカードの主要な最新技術であるVisa Open Platformの利用を計画している金融機関26社と「Open Platform User's Group」を結成することを6月2日に発表した。この団体には、世界の主要な金融機関が多数参加しており(日本からは住友クレジットサービスとDCカードが参加)、結成によって多機能スマートカードを利用したプログラムの発展が期待できる。多機能スマートカードの開発にVisa Open Platformを採用することで、消費者に提供する付加価値サービス、たとえば金融プログラムや身分証明、ネットワークアクセスなどを消費者と企業の双方に提供できるものとしている。

URL <http://www.visa.co.jp/>

Company WebTVが国内大手 プロバイダー6社との 販売協力を発表

ウェブ・ティービー・ネットワークスは、WebTVサービスとWebTVインターネットターミナルの拡販のため、大手プロバイダー6社と販売面で協力すると発表、6月末より利用者がすでに契約しているプロバイダーを使ってWebTVサービスを利用できる「OpenISPサービス」を開始する。今回、販売協力を行うプロバイダーは、NTT PCコミュニケーションズ(InfoSphere)、ジャーナルホームネット(ぶらら)、ソニーコミュニケーションネットワーク(So-net)、ニフティ(ニフティサーブ)、日本電信電話(OCN)、富士通(InfoWeb)の6社で、テレビでも楽しめるインターネットサービスの提供により新規会員の獲得を目指す。

問い合わせ ウェブ・ティービー・ネットワークス(株)
WebTVカスタマーサービス
TEL 03-3473-6011



W3Cが スタイルシート言語の CSS2を公開

W3C(World Wide Web Consortium)は、カスケーディング・スタイルシート・レベル2(CSS2)をW3C勧告として5月12日に公開した。現在、広く利用されているCSS1を発展させたスタイルシート言語がCSS2であり、これによって、ウェブデザイナーはダイナミックで豊かなデザインの文書を作成できるうえ、アクセシビリティと国際化の向上につながるものと考えられている。CSS2は、CSS1のすべての機能を含み、さらにダウンロード可能なフォントなどの表示制御機能やスライダー、ナビゲーションエリアなどが実現できるレイアウト制御のための位置指定プロパティが追加されている。また、XML文書を表示することを目的とした仕様も追加された。

URL <http://www.w3.org/>



朝日新聞社が 第3回朝日デジタル広告 賞の作品を募集開始

朝日新聞社は、デジタル技術を駆使したインターネット広告の新しい表現手法を競う「第3回朝日デジタル広告賞」の作品募集を開始した。この賞は、インターネット上の広告にデジタル技術の新たな可能性を見出し、クリエイターの才能を発掘する場として、朝日新聞社が96年度に創設したもの。今回もネットワークならではの多層的で新鮮な作品を広く募集、一般公募の部では、広告主の課題に基づいて制作された作品を募る。課題の発表は朝日新聞紙上とasahi.com上で、6月末より順次行う予定。受け付けは8月20日から10月15日までで、朝日デジタル広告賞グランプリ1点(賞杯、賞状、賞金)などが贈られる。

問い合わせ 朝日デジタル広告賞事務局
TEL 03-3481-0645
URL <http://www.asahi.com/daward98/>



日本テレコムが プレゼントが当たる 入会キャンペーンを実施

日本テレコムは、インターネットサービスのODNダイヤルアップに入会した人を対象にプレゼントが当たる「Happy! インターネットキャンペーン」を8月31日まで実施している。このキャンペーンは、ODNダイヤルアップに入会后、ホームページ上で応募するとカラープリンターやポータブルCDプレーヤーなどが抽選で合計555名に当たるというもので、入会するなら今が得だ。

URL <http://www.odn.ne.jp/cp1/>



ほかにもお友達紹介キャンペーンを実施中



インターリンクが プロバイダーの 乗り換えキャンペーンを開始

プロバイダー「IL-NET」を運営するインターリンクは、登録料金が無料になるプロバイダー乗り換えキャンペーンを開始した。「IL-NET」は月額1,000円のプロバイダーで、通常、入会には登録料金3,000円が必要になるが、キャンペーン中は、この登録料金が無料になる。入会の受け付けは電子メールのみ。問い合わせ インターリンク(株) プロバイダー乗り換えキャンペーン受付

✉ apply@interlink.or.jp
URL <http://www.interlink.or.jp/>



プロバイダーについてはホームページで確認できる



「'98 インターネットショー in 秋葉原」 今年も7月に秋葉原駅前広場で開催

昨年10万人もの来場者のあったイベント「インターネットショー in 秋葉原」が秋葉原電気街振興会主催、マイクロソフト特別協賛、インテル協賛で「What we can do by internet」をテーマに、今年も7月17日(金)から20日(月・祝)までJR秋葉原駅前広場で開催される。今年は「インターネットショー記念セール」も同時開催される(7月17日から8月2日)ため、昨年以上の盛り上がりが見込まれる。メインステージでは、村上龍氏や鹿野秀明氏によるトークショーや、ゲーム大会などの催しのほか、ホームページ教室、モバイルセミナーなどのインターネットにまつわる各種セミナーも行われる予定となっている。時間は11時から19時30分まで。また、ウィンドウズ98日本語版の発売予定日である7

月25日から8月2日までは廣瀬ビルイベント会場で「ウィンドウズ98 インフォメーションセンター」も開設され、ウィンドウズ98の展示体験からデモンストレーション、相談窓口など、ウィンドウズ98発売を盛り上げる。

詳しいイベント日程に関しては公式ホームページを参照のこと。

URL <http://www.akihabara.or.jp/>



昨年のイベント風景。各メーカーの特設ブースが立ち並び

Event イベントカレンダー(1998年7月~10月)

カレンダーの日程はあくまでも予定です。お出
かけの際は、問い合わせ先へお確かめください。

国内

開始日	終了日	名称	概要	開催場所	主催・問い合わせ先
7月1日	7月4日	WINDOWS WORLD Expo Tokyo 98 URL http://www.idgexpo.com/	ウィンドウズ対応ハードウェア&ソフトウェアの展示会とコンファレンス。「Computer Telephony World Expo/Tokyo '98」と併催。	日本コンベンションセンター(幕張メッセ) 千葉県千葉市美浜区中瀬2-1	主 IDG ワールドエクスポジャパン 関 WINDOWS WORLD Expo Tokyo 98 統括事務局 Tel. 03-5276-3751 Fax 03-5276-3752
7月8日	7月10日	EXPO COMM WIRELESS JAPAN '98 URL http://www.ejkruse.com/expocomm/asia/japanwireless98.htm	モバイルコンピューティングや携帯電話などに関する展示会とセミナー。	日本コンベンションセンター(幕張メッセ) 千葉県千葉市美浜区中瀬2-1	主 リックテレコム 関 E.J.クラウド&アソシエート日本支社 Tel. 03-3586-7865
7月15日	7月17日	JAVA COMPUTING EXPO '98 for ENTERPRISE URL http://www.nikkei.co.jp/events/jce/	Java関連製品を中心としたイントラネット/グループウェアなどの企業情報システムや周辺機器などの展示会。	東京ビッグサイト 東京都江東区有明3-21-1	主 日本経済新聞社 関 日本経済新聞社事業局総合事業部 Tel. 03-5255-2847 Fax. 03-5255-2860
7月17日	7月20日	'98 インターネットショー in 秋葉原 URL http://www.akihabara.or.jp/	インターネットに関連した、流通主体による世界最大規模の販促型展示会。	秋葉原駅前広場 東京都千代田区外神田1-18	主 秋葉原電気街振興会、秋葉原3商店街 振興組合、'98 インターネットショー in 秋葉原実行委員会 関 '98 インターネットショー in 秋葉原実行 委員会 Tel. 03-3224-9475
7月24日	7月26日	ぱそまる '98 URL http://www.nikkei.co.jp/events/pasomaru/	ホームコンピューティングに関する展示会。パソコンやインターネットが普及するなか、家族で楽しむ新しいライフスタイルを展示する。スクールや相談コーナーなども用意。	東京ビッグサイト 東京都江東区有明3-21-1	主 日本経済新聞社 関 日本経済新聞社事業局総合事業部 Tel. 03-5255-2847 Fax. 03-5255-2860
9月2日	9月4日	インターネットワールドジャパン'98 URL http://www.idgexpo.com/iw98/i-world_top.html	インターネット関連製品の展示会。情報・通信機器メーカーが集合。	日本コンベンションセンター(幕張メッセ) 千葉県千葉市美浜区中瀬2-1	主 IDG ワールドエクスポジャパン 関 Internet World Japan 98 統括事務局 Tel. 03-5276-3751 Fax. 03-5276-3752
9月9日	9月11日	ダイナミック・アジア (アジア中小企業見本市)	アジアの中小企業ネットワークの紹介とビジネスチャンスの提供のための見本市。	インテックス大阪(大阪国際見本市会場) 大阪府大阪市住之江区南港北1-5-102	主 アジア商工会議所連合会(CACCI) 関 (社)大阪国際見本市委員会 Tel. 06-612-3773
9月16日	9月18日	IBM 総合フェア'98 URL http://www.nikkeibp.co.jp/event/ibm/	IBMがわかる総合プライベートショー。	日本コンベンションセンター(幕張メッセ) 千葉県千葉市美浜区中瀬2-1	主 日経BP社、日本アイ・ピー・エム
9月30日	10月3日	WORLD PC EXPO 98 URL http://www.nikkeibp.co.jp/event/wpc/	特定の機種やOSに限定しないで、パソコンのハードやソフトからサービスに至るまで、あらゆる製品や技術が一堂に会するパソコン総合展示会。	日本コンベンションセンター(幕張メッセ) 千葉県千葉市美浜区中瀬2-1	主 日経BP社
10月6日	10月10日	エレクトロニクスショー'98 URL http://www.jesa.or.jp/guide/jes98/index_j.html	オーディオ、ビジュアル関連、マルチメディア関連の機器や部品、デバイスなどの展示会。	インテックス大阪(大阪国際見本市会場) 大阪府大阪市住之江区南港北1-5-102	主 (社)日本電子機械工業会(EIAJ) 関 日本エレクトロニクスショー協会(JESA) Tel. 03-5402-7601 Fax. 03-5402-7605

海外

開始日	終了日	名称	概要	開催場所	主催・問い合わせ先
7月7日	7月10日	MACWORLD Expo URL http://macworldexpo.com/mwny98/	マッキントッシュ関連のハードウェア、ソフトウェア、周辺機器などの展示会。	Jacob K. Javits Convention Center New York, NY, USA	関 MACWORLD Expo/New York Tel. +1-800-645-3976
7月13日	7月17日	Internet World Summer 98 URL http://events.internet.com/summer98/	インターネットの総合展示会。	McCormick Place Chicago, IL, USA	関 Mecklermedia Corporation Tel. +1-203-226-6967 Fax. +1-203-226-6976
7月21日	7月24日	INET '98: The Internet Summit URL http://www.isoc.org/inet98/	インターネット学会による国際会議。	Palexpo Geneva, Switzerland	関 Internet Society Tel. +1-703-648-9888 Fax. +1-703-648-9887
8月11日	8月13日	WebIT 98 URL http://www.kingbird.com/webit98/	Webアプリケーションと企業のイントラネットに関する展示会。	Hynes Convention Center Boston, MA, USA	関 KINGBIRD Media Group Tel. +1-800-652-2578 Fax. +1-212-869-2110
8月31日	9月4日	Seybold San Francisco Publishing 98 URL http://www.seyboldseminars.com/Events/sf98/	コンピュータやインターネットがCGや印刷、出版などにもたらす変化と新たな可能性に焦点をあてた展示会。	Moscone Center San Francisco, CA, USA	関 ソフトバンクフォーラム Tel. 03-5642-8433
9月8日	9月11日	COMDEX/Enterprise San Francisco '98/Object World West URL http://www.comdexenterprise.com/	インターネットテクノロジーの展示会、カンファレンス。	Moscone Center San Francisco, CA, USA	関 ソフトバンクフォーラム Tel. 03-5642-8433
9月22日	9月25日	ICE(Internet Commerce Expo) URL http://www.idg.com/ice/icela98/	インターネットコマース関連の展示会。	Los Angeles Convention Center Los Angeles, CA, USA	主 Internet Commerce Expo/IDG Expo Management Company
10月6日	10月8日	NETWORLD + INTEROP 98 London URL http://www.interop.com/	最先端のネットワーク技術&情報に関するアプリケーションとインフラの展示会。	Earls Court II London, England	関 ソフトバンクフォーラム Tel. 03-5642-8433



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp